



令和8年 3月 31日

岩倉市議会

議長 須藤 智子 様

堀江 珠恵

全国都市問題会議 in 宇都宮 研修報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和7年10月9日(木)～10日(金)
- 2 研修先 ライトキューブ宇都宮
- 3 復命事項
別紙のとおり

第87回全国都市問題会議

研修報告

令和7年10月9日～10日

ライトキューブ宇都宮

【テーマ】成熟社会の年のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～

1日目：基調講演・報告会

基調講演 「人口減少・成熟時代とまちづくり」

京都大学名誉教授 広井 良典

主報告 人口減少社会に対応する都市の構造改革

～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～

栃木県宇都宮市長 佐藤 栄一

一般報告 「縮充」発送による公共施設マネジメント

東洋大学国際PPP研究所シニアリサーチパートナー 南 学

都市縮小時代の持続可能なまちづくり

～高松・丸亀町に見る都市の再生と自立性～

香川県高松市長 大西 秀人

次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり

早稲田大学理工学術院教授 森本 章倫

2日目：パネルディスカッション

コーディネーター 埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授 内田 奈芳美

パネリスト (株)みちのりHD代表取締役グループCEO

(兼)関東自動車(株)代表取締役社長 吉田 元

まちなか広場研究所主宰 山下 裕子

北海道室蘭市長 青山 剛

鳥取県米子市長 伊木 隆司

・基調講演 「人口減少・成熟社会のデザイン」

【所感】

高齢者が増え、出生数の減少が止まらないのが今の日本である。また、高度成長期から都市部に人口が流れ、集中している。人口が30万～50万人規模の都市は中心部が空洞化している。最近では、若い世代が「コミュニティの拠点」として商店街に目を向ける動きがある。少し前までは、車を使って郊外の大型ショッピングセンターに出かけたが、高齢者世代は、車を使って買い物に行くのが難しくなっているのが現状である。そこで、中心市街へ足を向ける流れになってきており、歩いて楽しめる空間が各地でも活発になってきている。講演では、ヨーロッパのドイツを例にあげていた。ヨーロッパでは、都市中心部においては車の規制をして歩いて楽しめる街を確立しているようである。地方都市、特に愛知県は車社会と言われるため、車の所有率も高く、少しの距離でも車で移動する習慣がある。しかしながら、若者は車を所有しない傾向にあるため、今後の持続可能な街づくりを考えるならば、岩倉市においては、岩倉駅周辺に商業を集め、コミュニティの場を集め、高齢者は外出機会を少しでも増やせるように交通インフラを利用しやすいように整備をしていく必要があると感じた。

・主報告 人口減少社会に対応する都市の構造改革

【所感】

今回は宇都宮市が事例であった。宇都宮市の地形はほぼ8割が平坦な土地であること。また面積は416.85km²であり、岩倉市の40倍の面積であることから、複数の地域拠点をつくることとしている。またこの複数の地域拠点をライトライン、バス、タクシーでつなぐ。また、ライトラインの沿線上で居住を促し、高齢者になっても安心して公共交通を使える形へ都市計画されている。ライトラインの電気代は、ゴミ焼却の熱を利用している。年間2億の黒字となっているとのこと。都市計画をするにあたり、市独自の地形や人口の傾向を見ながら、未来はどんな街にしていくことが理想かを、今まさに舵を切る時ではないかと思った。岩倉市単独ではなく、近隣市町へ延伸できるようにすることも一つであると考え。車が多かった時代、バスなどの利用が減り廃線になってきた。しかし、車を乗らない若者もあり、横の移動が大回りになったりするため、そこを解消できるといいのではないかと考える。

・一般報告

- 「縮充」発送による公共施設マネジメント
- 都市縮小時代の持続可能なまちづくり
- 次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり

【所感】

いろんな角度からこれからのまちづくりを聞くことができた。公共施設においてはどの自治体も同じ悩みを抱えている。岩倉市も同じである。一つは100ぐらいの自治体は学校や庁舎の包括点検・修繕を委託している。民間のノウハウで施設データの活用をし、長寿命化か統合かの計画に役立てることができる。明石市は7名いた職員を減らし、5名の民間スタッフを常駐させた。民間は庁内業務をしないため、現場業務に集中できるのは利点である。他には、いろんな施設の利用実態も今一度見直しが必要であると感じた。簡単に無くすのではなく、施設の複合化や多機能化も考えていかなければならない。岩倉市は、小学校で土曜日開放日があった。しかし、年々利用者数も減少といった事実がある。もう少し、子どもたちが楽しめる、市民団体などが利用できるようにするのも一つの考えでもあると思った。あるだけのものが、質を考える時代に入ってきているのかもしれない。また、今回は自動運転バスの紹介もあり、人材不足の時代新しい交通システムであった。どの自治体も駅を中心としたまちづくりをしており、岩倉市は、現状市の中心に駅があるため、これを活かすやり方を皆で知恵を出し合い、考えていく必要があると思った。

・パネルディスカッション

【所感】

ヨーロッパでは、中心地には車が入れない仕組みになっている。そのかわり、車がなくて、歩いて街を楽しむ形となり、これは健康に繋がると思った。中心地に車が入れないということは、周りに駐車する場所を設けるのか、それとも公共交通のネットワークを進化させていかなければならないと感じた。今後は、AI技術を使い、利便性の高い予約ができるシステムが目ざされている。高齢者にとっては難しいかもしれないが、そこはスマホを活用できるように講座など開催し、繋げていくしかないのではないかと。田舎に行くほど、中高年は車を活用している。車は便利ではあるが、圧倒的に

歩くことが少なくなる。少しでも歩くことは健康に繋がり、健康であれば、余暇を過ごす意欲にも繋がると考える。あそこへ出かけたいとなるような仕掛けが必要であり、それを考慮したまちづくりを今後は考えていかなければならないと感じた。